

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヨシア（スカイブルー）		
○保護者評価実施期間	2026年 2月9日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの発達に差があり、それぞれの特徴や段階に合わせた関わりを行っています。そのために、クラス会議やS Vなどを通じて、子どもの特徴など共通認識を持てるように心がけています。	特に重度の子どもが多いクラスのため、食事の仕方やトイレなど一人一人特徴を押さえること。排泄介助や食事介助を、適宜必要なだけ行う。やり過ぎず、丁寧に。活動も、集団の中でも個別性を大切にしながら大人と一緒に活動に参加しています。	子どもたちの発達や特徴を、職員間で共有しながら適切に関わっています。また、家庭の状況も積極的に聞き取りをして連携をしています。
2	職員が適切に、より良く関わって支援できるように、様々な研修で専門性を高めている。職員の年代や職種に合わせた専門研修を行っている。	特に虐待防止に関しては、週に1度アンガーマネジメントの研修に参加している。また、年代別の研修や外部講師による研修等に積極的に参加し、クラス内にも共有している。	今後も、研修の学びを重要な事として参加できる体制作りを努める。
3	家族支援を重要な支援として法人全体で様々な家族支援の場があり、個別カウンセリング、グループカウンセリング、自助会等、親子発達支援等で家族の困り感に寄り添って支援を行っている。	家庭との連携は事業所内面談、グルカン、送迎時に話す、電話連絡、緊急携帯など連携を図っている。必要時は、家庭訪問を行って家族支援を行った。	これからも保護者に寄り添って困り感には適切な関わりを持てるようにチームで取組む事を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用対象児の年齢や所属する学校が多岐（市立小学校に加え、各養護学校）にわたり、障害の程度が幅広い中、意思疎通の問題や活動の取り組み方に差異があり、支援の細分化がひつようになっている。	子どもたちそれぞれの理解や関わりに対して、広い専門領域が必要になってくる。	年代別や、職種別の研修会や事例検討、G S Vなど様々な機会を通して、子どもの障害や特性について学んでいく。
2			
3			